

豊洲・築地市場問題：再度の要望書

東京都知事 小池百合子殿

東京都が土壌汚染など、重大問題を解決しないまま豊洲市場を開場させたことに抗議し、あらためて豊洲市場の科学的な手段での安全点検とその結果の公表を求めます。また、安全にかかわる重大問題が判明した場合に備えて、築地市場の解体を中止するよう求めます。

2018年10月21日

日本科学者会議東京支部（常任幹事会）

10月11日、東京都は、安全や運営に支障をきたす恐れのあるさまざまな問題が指摘されるなかで、豊洲市場の開場を強行しました。日本科学者会議東京支部はこのことに強く抗議します。

去る9月6日、日本科学者会議（JSA）東京支部は、「安全性の徹底的な検証なしの豊洲市場への移転の中止を求める」（要望）を貴職に提出し、「地下には有害物があっても地上は安全」との専門家会議の「安全宣言」は科学的根拠に乏しいことを指摘しました。そして第三者による安全性の検証および情報公開を求めました。

例えば、7月30日に、地下ピットに原因不明の水染みが見つかりました。都は、最初は天井の結露と説明し、その後、雨水と説明していますが、その結論に至った根拠はなんら示されていません。私どもは、もしその原因が地下ピットへの地下水の浸水であった場合には、地上への有害物質の拡散へとつながることを危惧し、水染みの原因解明のための科学的な検査を求めました。しかし、貴職は、この要望にたいしてなんの回答もされないまま、市場を開場されました。

私どもが要望書を提出した直後の9月11日、市場の敷地内で長さ10メートル、段差約5センチのひび割れがあることが発覚しました。都は、ひび割れを1年近く前から把握していたこと、これらのひび割れを隠して農水省へ認可申請したことを認め、「建物周辺に施した盛り土部分の地盤が水分などを失い徐々に沈下した。一定の時間が経過すれば沈下は収まる」と説明しました。この説明は、ひび割れの原因の一つの可能性を述べたにすぎず、「時間が経てば沈下が収まる」根拠については納得できる説明がされていません。しかも、その後の調査でさらに10か所に亀裂が見つかりました。亀裂から地上に、土壌中の有害物が拡散する恐れを当然考慮すべきですが、なんらの言及もされていません。

さらに、9月23日には、水産売場近くのマンホールから汚染未処理の地下水が30分近く噴出しました。この噴出について都は、「揚水ポンプの『空気弁』の不具合のため、浄化する前の地下水が漏れ出したが、高濃度の汚染は検出されていない。短時間、局所的な噴出なので環境に悪影響を与えることはない」と述べました。環境に悪影響を与えないという見解は、どういう根拠に基づくものか、これも疑問です。

これまでに行われた地下水モニタリングでは、環境基準の100倍を超すベンゼンや、（あってはならない）シアンが検出されています。環境基準による検査の対象にならない多数の重金属の存在も、研究者によって報告されています。われわれは、地下水の地上への噴出は、有害蒸気や残渣の発生につながり、市場労働者の健康や食の安全に大きな影響を与えるものと考えます。

日本科学者会議東京支部として、以下の4点を要望いたします。

- (1) 本会は9月6日の要望書で、今回の水染みに関して「第三者の専門家などによる科学的な手段による原因究明のための立ち入り検査」を貴職に求めました。これに対する文書回答を11月6日までに行うことを求めます。
- (2) 市場内に発生した不安材料について、科学的手段を用いて原因究明し、その結果を公表し、納得の行く説明を、11月末日までに行うことを求めます。
- (3) こうした対応措置を機敏に行い、消費者にとって安心で、市場労働者にとっても安心して働ける市場環境を整備することを強く求めます。
- (4) また、少なくとも市場労働者が安心して働ける環境が整うまで、築地市場解体を中止し、使用可能な状態で維持することを強く求めます。